

G-SEC Newsletter

No.32 2012.9.1

G-SEC における寄附講座

春学期を終えて

竹中 平蔵 (慶應義塾大学 G-SEC 所長・総合政策学部教授)



----- 2009年に規程を改正して、G-SECの事業に寄附講座が加えられました。今年度は5講座を設置していますが、春学期に開講した3科目について紹介いただけますでしょうか。(事務局)

竹中 研究所における活動成果を、教育や社会にどのような形で還元するか。寄附講座はその一翼を担うものと位置づけられます。アカデミズムが提供する学問に、社会における各方面の識者・実務者の知識や経験を加えた多角的視点に立った講義を提供することにより、実践的能力を備えた人材輩出につながることを狙いとしています。

「グローバル金融市場論」ですが、金融を分析するためには経済学、金融論など既存のミクロ、マクロの視点のみならず、企業法制、金融法制、経営学、財務会計などに多岐に亘る総合的な知識が必要です。ところが、従来の国際資本市場論は既存のミクロ、マクロの視点から語られることが多く、証券市場の実務家から見ると、現実とアカデミズムの乖離は小

さくない状況です。このギャップを埋め、学生に実社会の知識を提供するため、シティグループ証券との共同研究「国際金融市場共同研究」の客員研究員でもある、同社取締役副会長の藤田勉氏をゲスト講師としてお招きしています。

「起業と経営」は湘南藤沢キャンパス(SFC)出身者のご厚意で設置しました。詳細は、このあとの井庭先生の報告に譲りますが、先輩の経験に聞き入り、質問をとめどなく投げかける学生の熱気、自己の自立を真剣に考える学生の姿が印象的でした。

「健康への貢献」は、G-SECで「慶應 国連 PRME プロジェクト」の研究統括をされている商学部の梅津先生が、「健康」概念をキーワードにしながら新たなCSRのあり方を探る」という、これまでにないような視点から取り組まれました。学内外からのゲスト講師の講義、学生によるグループワークを取り入れ、講義を踏まえた起業提案では、非常に質の高い提案がなされたと伺っています。

----- 寄附講座の狙いは達成されているようですが、今後についていかがお考えですか。(事務局)

竹中 今年度設置した5講座は、経済・金融、事業化、革新・先導、社会貢献、文化交流など、さまざまな分野の叢智を結集して、人材育成につながるものとなっています。これらの成果をさらに発展することにより、グローバル人材の育成の拠点に発展させられるものと考えています。



<巻頭特集> G-SEC における寄附講座 - 春学期を終えて -

2012年度 G-SEC 寄附講座 春学期開講報告

G-SEC Faculty Seminar 第8回、第9回 開催報告

研究プロジェクト紹介

2012 年度 G-SEC 寄附講座 春学期開講報告

シティグループ証券寄附講座「グローバル金融市場論」(木曜日2時限目 三田キャンパス開講)
竹中 平蔵(慶應義塾大学 G-SEC 所長、総合政策学部教授)

本講座は、国際金融市場について、アカデミズムの視点に、実務家の視点・知識を加えた複眼的視点に立った講義を行うことにより、現実とアカデミズムの乖離を埋め、学術的知識に加えて実践的能力を備えた人材の育成につなげることを目的としている。

2009 年度に開設され、昨年度より、受講者がより高い成果を修得できるよう、選抜試験により受講者を 30 名以下に絞り、秋学期に演習を加えて、双方向性の高い授業形態に切り替えた。今年度の履修者は、文学部 1 名、経済学部 15 名、法学部 7 名、商学部 2 名。

中外製薬寄附講座「健康への貢献:CSR 論からの新たなアプローチ」(木曜日5時限目 三田キャンパス開講)
梅津 光弘(慶應義塾大学 G-SEC 研究員、商学部准教授)

本講座の目的は「健康」概念をキーワードにしなが、新たな CSR のあり方を探ろうというものである。今年度は文、経、法、商の学部生のみならず SFC 健康マネジメント研究科を含む全塾の多様な専攻分野の学生が参加した。クラスでは様々な講義を受講しながら学部、研究科の壁を越えて学生、院生が現状認識を深め、各自の専門性を活かしながら、どのように企業、NGO、地域社会、行政、国際機関などとの連携を果たすべきかを考え、最終的には学生諸君が様々な事業モデルを構想し、政策的提言をする。これは G-SEC ならではの場であると同時に、三田にユニークな学際研究交流の場ができたと考えている。最終の授業では 7 つのグループがコンクール形式の研究発表会を実施し、外部の審査員も交えての審査の結果 3 グループが表彰された。最優秀賞を受賞した「SNS を利用した CSR one」の

研究発表は今後 12 月に開かれる PRME アジア大会での発表のほか、企業化も含めて更なる検討に入る。



(「健康への貢献:CSR 論からの新たなアプローチ」授業風景)

アントレプレナー寄附講座「起業と経営」(金曜日5時限目 湘南藤沢キャンパス開講)
井庭 崇(慶應義塾大学 総合政策学部准教授)

2012 年度春学期に開講したアントレプレナー寄附講座「起業と経営」(担当:竹中平蔵,井庭崇)では、SFC を卒業した後さまざまな分野で起業され、活躍されている方々をゲスト講師としてお呼びし、講演をしていただいた。履修者は SFC 所属学生を中心に 334 名にのぼり、毎週金曜日 5 時限目の授業時間には熱心に聞き入る学生で教室(11:386 名収容)が埋め尽くされるという状況であった。

この授業の講演の特徴は、授業時間の半分以上を質疑応答にあてるといった点だ。ゲストスピーカーの方には、どのようなことをやってきたのかということをお話



(「起業と経営」授業風景 撮影:井庭崇)

していただき、残りの多くの時間を、質問とその応答の時間とした（初回の佐野さんは、なんと、講演無しですべて質疑応答でした）。このスタイルで行ってよかったのは、活動の背景にある考え方や、当時の悩み、大学時代のことと現在のつながりなど、ふだんの講演ではあまり聞くことができないお話を聞くことができたことだ。

もうひとつ、この授業の特徴をあげるとすると、それは、履修者（参加者）がツイッターで実況や感想を流していることである。自然発生的にできたこの授業用のハッシュタグ「#起業と経営」は、毎週金曜日の夕方（授業

がある時間）になると twitter トレンドにランクインするというほど、たくさんのツイートがあった。

授業後半には、それまでの講演を踏まえた上で、自分ならどのような問題に取り組むのか、そして、どのように人生をつくっていくのかを考え、語り合う機会を設けた。単に、講演で刺激を受けるのでは受け身的だ。そこから、自分のことについて、しっかりと考えることが必要なのだ。先輩の熱い話も、自分のことを考えた経験も、多くの学生にとって刺激のかつ貴重な機会だったのではないかと感じている。

G-SEC Faculty Seminar 開催報告

コーディネーター： 田村 次朗（慶應義塾大学 G-SEC 副所長、法学部教授）

第8回「東アジアの地域統合と高等教育の国際化」（2012年5月30日（水）東館6階 G-SEC Lab.）

講師： 黒田 一雄氏（早稲田大学 大学院アジア太平洋研究科教授）

黒田氏が講演の中で述べられていた「アジアのアジア化」というキーワードが興味深い。かつてアジア人が欧米に留学していたのが近年はアジアに留学するという傾向が見られ、その規模が急速に拡大しているとのことだ。同氏は今こそアジア地域での高等教育のフレームワークを作っていく必要があると述べる。アジアの多様性をまとめるのに相互連携が進む日中韓のフレームワークを活かすのが効果的という考えが印象的であった。



第9回「アジアにおけるグローバル人材育成と大学の役割」（2012年6月27日（水）東館6階 G-SEC Lab.）

講師： 北村 友人氏（上智大学 総合人間科学部教育学科准教授）

北村氏は留学生に日本で学ぶインセンティブを提示する必要があると述べる。そのための現状として日本の大学は質が良いが、形式が世界標準に合致していないために、世界から受け入れられないと分析する。改善のためには、日本の学部ごとで専門科目だけを学ぶシステムだけでなく海外のエリートが必修とする歴史や哲学などの教養なども併せて身につけるカリキュラムをもっと充実させることが必要と同氏は述べる。

世界に日本人がグローバル人材として通用するためには、形を世界に合わせていくことが重要であるとの考えが興味深かった。



研究プロジェクト紹介

新ソーシャルメディアを活用した実空間におけるコミュニケーション設計及びデザイン手法の研究開発

研究統括：武山 政直（慶應義塾大学 G-SEC 上席研究員・経済学部教授）

昨年度から継続し、大日本印刷株式会社と共同でオープンイノベーションをテーマとする研究を進めています。昨年度は、エクスペリエンスジャーニーラボという名のアイデア形成をコラボレーションで行なう Web サイトを開発し、衣食住を支援する次世代サービスのアイデアを生み出しました。その成果を元に、料理をテーマとするネットワークサービスの実動プロトタイプを制作し、2012年3月に港区の SHIBAURA HOUSE という施設で公開エキシビションを開催しましたが、研究者や学生、ビジネスパーソンや住民から数多くの貴重なコメントを得る

ことができました。また、同年2月にフィンランドの国際学会で本研究について発表を行い、海外の研究者からも高い評価を得ています。

本年度は、この方法のより実践的な有効性を探るため、企業の事業課題を対象としたサービス企画に取り組んでいます。またアイデアを素早くイメージやモックアップとして表現し、アクティングアウトと呼ばれる演技を通じたプロトタイピングによって、その改善や発展を進める手法の導入もチャレンジ課題となっています。

カスタマージャーニーマップの分析と体系化

研究統括：武山 政直（慶應義塾大学 G-SEC 上席研究員・経済学部教授）

この研究は新規の短期集中プロジェクトですが、日立製作所デザイン本部のユーザエクスペリエンス研究部のデザイナーたちと一緒に、サービスデザインの技法に関する調査分析を行ないます。サービスデザインは近年急速に発展しつつある新しいデザイン領域ですが、製造業とサービス業の融合、情報通信技術を応用した新しいネットワークサービスの登場、ソーシャルイノベーションの為の公共サービスの転換など、現在の社会における様々な重要な課題の創造的解決をテーマとしています。そのため、経営やマーケティング、テクノロジー、公共政策

などの分野の知見や経験を持つ研究者や実務家たちとのディシプリンを超えた交流が盛んとなっていて、同分野には、そのような異分野の知の共創を上手くファシリテートする役割も期待されています。

本プロジェクトでは、サービスデザインの技法の中でも、特にサービス利用体験のプロセスを利用者視点で視覚的に記述するカスタマージャーニーマッピングと呼ばれる技法に注目し、その特性や有効な活用方法について調査を実施し、さらなる発展的応用の可能性について検討します。

慶應 国連 PRME プロジェクト 2012年の挑戦

研究統括：梅津 光弘（慶應義塾大学 G-SEC 研究員・商学部准教授）

本プロジェクトは2007年より開始した慶應 国連グローバル・コンパクトプロジェクトを引き継ぐ形で2年目を迎えた。今年は、これまでのプロジェクトであった民間企業、NGO、政府機関をつなぐ Tri-Sector Alliance の構築可能性探求を継続するとともに、新たな CSR に関する研究も開始する。

また今年度は念願であった寄附講座を開講することができた。別掲に詳細は記すが、中外製薬寄附講座「健康への貢献」は三田の全学部、SFC の院生を含めた文科系学部の共同実験サイトといった場を提供すると同時に、PRME が目指している責任経営教育の新たな試行として、

学部や専門を超えたプロジェクト型教育方法の実験をすることができた。こうした成果は順次刊行していく予定であり、新たなプロジェクトの開拓も探っていく予定である。

最後に本年12月8日（土）～9日（日）の両日、PRME アジアフォーラムを開催する。日本、韓国、中国を中心にインドネシア、オーストラリアも含めた幅広いアジア地域の代表が参集してアジアにおける責任経営教育の現状を議論するとともに、二日目には各国の学生グループの発表大会を開催する予定である。各界からのご協力とご支援をお願いする次第である。